

「よりよく食べる」、「よりよく暮らす」領域

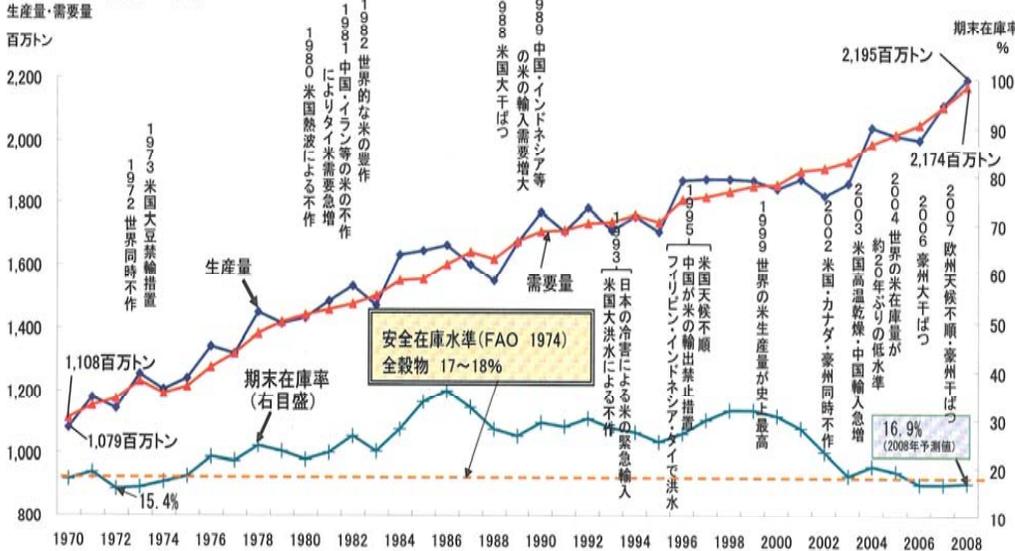
【現状分析(国際競争力を向上させる安全な食料の生産・供給科学技術)】

- ・ 我が国は、イネの遺伝子解析技術に代表されるように、優れた基礎的な技術を擁しており、GMOの技術に関しても、その活用により、我が国の食料安全保障のみならず国際的な食料問題の解決に貢献していくことも期待されている。
- ・ 国民の理解を得ながら、研究開発の体制を整備することが不可欠。

穀物の需要量、生産量、期末在庫率の推移

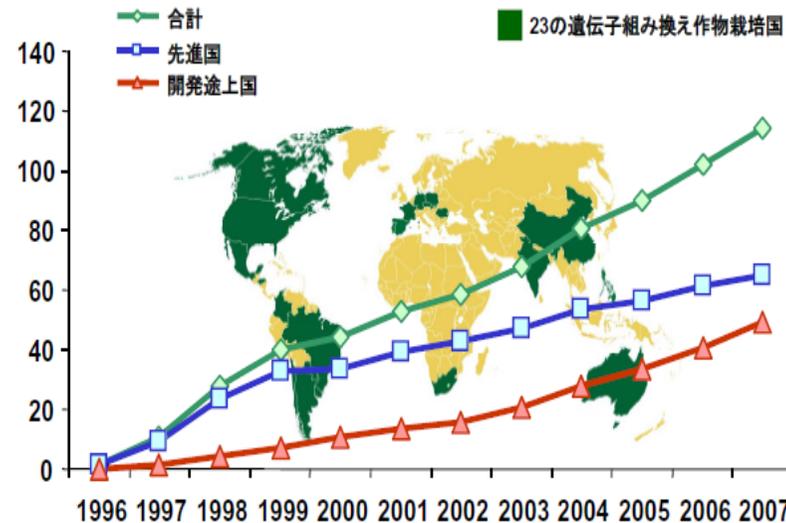
- 世界の穀物(米、とうもろこし、小麦、大麦等)の需要量は、人口の増加、所得水準の向上に伴い増加している。一方、生産量は作柄により変動しているものの、主に単収の伸びにより需要量の増加に対応している。
- 期末在庫率は、需要量の増加に対して、作柄変動による主要生産国での生産量の減少が続いたことから、食料危機と言われた1970年代初めの水準まで低下している。

□ 穀物の需給の推移



資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(September 2008)、「Grain:World Markets and Trade」,「PS&D」

世界の遺伝子組み換え作物栽培面積の推移(単位:百万ha)



2007年の遺伝子組み換え栽培面積は、前年比12%増、1,230万ha(3,000万エーカー)増加

Source: Clive James, 2007.

【対応状況(国際競争力を向上させる安全な食料の生産・供給科学技術)】

「新農業展開ゲノムプロジェクト」を優先度判定において高く評価

○革新的遺伝子組換え作物の開発とそれらの理解促進に向けた研究

・平成20年度概算要求における優先度判定でS評価、12億円（平成20年度予算額）

（食料・環境・エネルギー問題を解決するため、遺伝子組換え技術を駆使した超多収イネなど画期的な作物開発を行う。また、遺伝子組換え作物の受容を進めるため、消費者の信頼確保のための管理技術の開発や国民との対話の促進などを実施する。）

○有用な遺伝子を見つけ、それらの働きを確かめる研究

・平成20年度概算要求における優先度判定でA評価、15億円（平成20年度予算額）

（食料・環境・エネルギー問題を解決するため、有用遺伝子の単離・同定、染色体地図上での位置の特定、遺伝子の機能の解明等を集中的に実施する。）

科学技術連携施策群「食料・生物生産」において推進体制を検討

・ GMO(遺伝子組換え農作物)の実用化研究の推進に向けた検討を行い、円滑な屋外栽培試験の促進に関する推進方策(第一次取りまとめ)を取りまとめ中

BT戦略推進官民会議(関係6大臣閣僚と有識者)により、昨年12月、バイオテクノロジーの推進方策を取り纏めた(ドリームBTジャパン)

その中に提言されている「国民理解推進作業部会」を開催し、新たに研究開発された革新的バイオテクノロジーに関する教育や国民理解を促進する。